図 書 紹 介・New publications

系統発生パターンと進化プロセス：比較生物学の方法と理論．N. エルドリッジ・J. クレイクラフト．1989（篠原昭彦・駒井古実・吉安　裕・橋本里志・金沢　至訳）． 蒼樹書房，東京，377 pp. 5,150 円（消費税込み）．

本書は N. Eldredge and J. Cracraft (1980) による Phylogenetic Patterns and the Evolutionary Process: Method and Theory in Comparative Biology (Columbia Univ. Press) の全訳である．訳者は昆虫の研究者で，分岐分類学に興味をもっている人たちである．

分岐分類学が，系統分類学の方法論として大きな力をもっているのは今日では明らかである．しかし，Hennig の Phylogenetic Systematics が出版されたのは，1966 年であり，それほど古い話ではない．分岐分類学派は 1970 年代を通じて，表形学派 (phenetics) と進化学派（総合学派）(evolutionary taxonomy) との激しい論議を行い，その結果優勢となったのである．日本でも分岐分類学に基づいて魚類の系統分類の研究が行われるようになったのは 1970 年代の後半である．しかし，分岐分類学に関する日本語の本は，特定の分類群について散見される程度で，本格的な出版物は出されていなかった．

日本では，分岐分類学を魚類の系統類縁関係の解析に用いる人は，決して多いとは言えない．この理由は，まことに単純な事情による．分岐分類学の食わず嫌い，もしくは英語の分厚い本を読むのは億劫である，ということである．これは，まことにもっともなことである．Hennig の本も最初はドイツ語で書かれていたため，ほとんど読まれず，影響力がなかったが，内容も改訂された英語版が出るとアメリカで圧倒的な支持を得るに至った．母国語で読めればそれにこしたことはないのである．

本書は系統分類学の方法論について全般的に論究しており，これから分岐分類学を学ぼうとする人にとって格好の教材となるばかりでなく，分岐分類学を用いて研究している人たちにも多くの示唆を与えてくれるに違いない．同様の書物としては，Wiley (1981) の Phylogenetics: The Theory and Practice of Phylogenetic Systematics (John Wiley and Sons, New York) があるが，残念ながら翻訳は出ていない．系統分類学に関する文献は原著で読むことが望ましい．確かにこれは真実である．しかし，Hennig の本も英訳が出て，初めて多くの人たちに影響を与えたことを考えると，翻訳を行って多くの文献を日本人に提供する作業は大いに評価されるべきである．訳者達の努力に大いに敬意を表したい．

本書は 6 章からなっている．第 1 章は序論：比較生物学におけるパターンとプロセス，第 2 章は分岐図：分岐仮説とその分析，第 3 章は種：その特質と認識，第 4 章は種分化の様式と系統樹の分析，第 5 章は生物の分類，第 6 章は分類学と進化プロセスという構成である．

分岐分類学にとって最も重要な共有新形質 (synapomorphy) のこと，形質の解析の方法，系統類縁関係の探り方，分岐図と系統図の関係，種をどのように認識するか等，多くの大事な事柄が明瞭に，具体例を示しながら述べられている．著者達が古生物学にも通じているため，種の認識に関する論議はまことにおもしろい．祖先種と子孫種が扱っている材料の中に存在する可能性を認めつつ，それをどのように認識するか，時間軸にそって形態が連続的に変化する場合その両端に位置する個体は同種と見なされるべきか否か等，興味深い論議が次々と展開されていく．

分類に関しては，A 群と非 A 群の論議は大いに参考になる．我々は日常的に疑問ももたずに，ある形質によって特徴づけられる群とそれに対応する群，すなわちその特徴をもたない群を分類している．しかし，ある形質をもたないことによって特徴づけられる群（例：無脊椎動物）は，単系統群ではない．このことは理論的には納得できるが，多くの場合見過ごされているのも事実である．ある属に共有新形質が見いだされなければ，その分類群としてのまとまり自体に疑問をもつ必要が出てくる．このようなこと，すなわち理論から現実をもう一度見直すことが経験主義に陥りがちな分類屋の眼を力ずくで洗いなおしてくれるのである．

分岐分類学は，本書が出版されてからも大いに変化している．G. Nelson のような極端な変形学派の登場は，進化そのものをどのように系統分類学の中に位置づけるかという大問題を提起したし，系統類縁関係の構築に使われる外群比較法 (out group comparison) についても大いに論議が行われてきた．このような点は最近の Systematic Zoology や Cladistics その他の文献で情報を補足する必要がある．しかし，本書で扱われている事の重要性には何ら変化はないし，内容的にも現在でも十分役に立つ．

翻訳には細かい神経が行き届き，原著の矛盾点も脚注で指摘してある．事項索引もあり役に立つが，重要な事項については解説を付けて，別に扱って欲しかった．分岐分類学で用いられている apomorphy, synapomorphy に新形質，共有新形質という訳語を当てている．これに

賛成である．原始的と派生的（特化的）に対して旧形質と新形質が対応することになり，分かりやすい．分岐分類学の訳語がまだ統一されていないだけに，本書が今後の基準となる可能性が高い．その点を考慮すると重要な用語については一覧表を設けるなどの工夫がなされるべきであったといえよう．

（松浦啓一　Keiichi Matsuura）

Fishes of the Western North Atlantic. Part 9. E. B. Böhlke, ed. 1989. Sears Foundation for Marine Research, Yale Univ., New Haven, xvii＋vii＋1055 (vol. 1: i–xvii＋1–655; vol. 2: i–vii＋657–1055) pp.

Memoir, Sears Foundation for Marine Research の No. 1 として 1948 年以来続いているシリーズの Part 9 で，1982 年の Part 8 から 7 年ぶりに出版されました．この Part 9 は Vols. 1, 2 に分かれており，Vol. 1 はウナギ目とフウセンウナギ目で，前者は 15 科 81 属 174 種，後者は 4 科 4 属 6 種が含まれています．Vol. 2 にはこれらの 2 目とカライワシ目，ソコギス目の leptocephalus 幼生 168 種がまとめられています．著者は E. Bertelsen, E. B. Böhlke, J. E. Böhlke, W. H. Hulet, M. M. Leiby, J. E. McCosker, J. G. Nielsen, C. H. Robins, C. R. Robins, D. G. Smith, K. A. Tighe の 11 人で，分類群別に分担していますが，Vol. 2 はその大半を MCZ の David G. Smith が執筆しています．

A List of the Fishes of Canada. Don E. McAllister. 1990. Syllogeus, National Museum of Natural Sciences, Ottawa, No. 64, 310 pp.

オタワのカナダ国立自然科学博物館魚類学部門の curator である著者により，同館出版物 Syllogeus の No. 64 としてまとめられた，カナダ産魚類リストです．海産から淡水産まで，これまでに知られているすべての種類が載せてあり，その数は 44 目 200 科 1,102 種です．リストは分類順で，学名，著者，年号に続き，英(仏)名，habitat，分布，そして種によっては分類学上のコメントが付記されています．各ページは左右 2 つに分けられ，英語とフランス語で併記されています．32 種についての描図，文献リスト，索引がついています．

会員通信・News and comments

"The Threatened World of Fish" International Congress of Ichthyology, The Hague, The Netherlands, August 26–30, 1991

The 7th International Ichthyological Congress of the European Ichthyological Union (EIU) will be organized in the Congress Centre "Nederlands Congresgebouw" in The Hague, The Netherlands from August 26–30, 1991. The scientific programme will comprise plenary lectures, parallel symposia, free and poster sessions. Many of these will be devoted to the theme of the congress. Symposia topics will be:

- Are the major fish faunas well known?
- Management and conservation of fish faunas.
- Taxonomy/Zoogeography/Phylogenetics.
- Functional and ecological morphology.
- Life history strategies.
- Applied fish biology.
- Diseases and parasites.
- Genetics and population ecology.
- Neuro-ethology and sensory physiology.
- Endocrinology and reproduction.
- Natural and anthropogenic perturbations of fish faunas.
- Multidisciplinary approach to cichlid fishes.
- Comparative anatomy.
- Behavioural and physiological ecology.
- Community ecology.
- Fish culture.
- Marine fishes and fish larvae.
- Evolutionary and applied cytogenetics.
- Recruitment.

The official language during the congress will be English. Abstracts of the presented papers and posters will distributed at the beginning of the congress. The proceedings will also be published in English, possibly as an issue of the "Netherlands Journal of Zoology", containing lectures of about 35 invited speakers. Information concerning the scientific programme: Dr. H. Nijssen, P.O. Box 4766, 1009 AT AMSTERDAM, The Netherlands. Phone: ＋31-205256615; Telefax: ＋31-205257238.

The registration fee will be appr. Dfl. 450 (Dutch Guilders); students appr. Dfl 210. Preregistration is strongly encouraged and can be made at reduced fees (appr. Dfl 400 for regulars, and appr. Dfl 160 for students) until May 1, 1991. The final announcement—including registration form, accommodation form and abstract form—will be forwarded in November 1990. It can be obtained from: Congress Organization Services, "Van Namen & Westerlaken", P.O. Box 1558, 6501 BN NIJMEGEN, The Netherlands. Phone: ＋31-80234471; Telefax: ＋31-80601159.